

東本宮（ひがしほんぐう）

日吉大社七社第二殿の東本宮には、崇神天皇の時代から比叡山を守護する大山咋神（おおやまくいのかみ）が祀られている。大山咋神のための最初の恒久的な建物がここに建てられた時期は不明だが、7世紀末の西本宮の造営に続いて建てられたとされる。

現在の建物は1595年（文禄4年）に建てられた日枝造り様式のものである。日枝造りの特徴は、本殿の下にある天井の低い部屋である。この部屋は19世紀後半まで仏教の礼拝に使用されていた。扉の前に置かれた2本の木製の杖にジグザグの紙垂（ごへい）が付いているのは、大山咋神への供物であり、この堂が神聖な空間であることを示している。

本殿は国宝に指定されている。